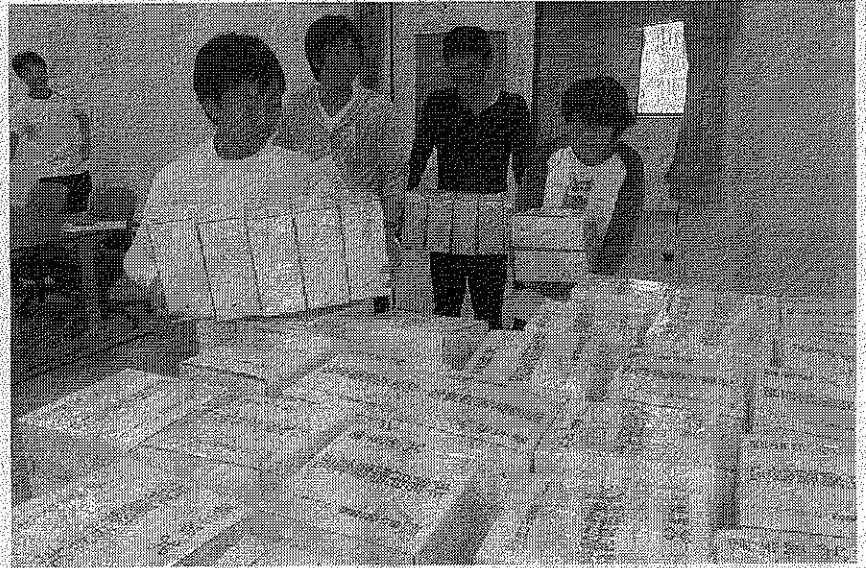


暁中高校に災害備蓄品

四日市・白い小箱 障害者施設が箱詰め

【四日市】災害用物資の普及活動に取り組む四日市市の「一般社団法人日本非常食推進機構」(古谷賢治代表理事)は6日、暁中高等学校(同市萱生町)へ備蓄物資の入った「白い小箱」約九百四十箱を納入した。小箱の箱詰め作業は地元障害者就労支援施設が請け負い、障害者支援にもつなげている。

小箱には、飲料水、氷砂



災害用備蓄品「白い小箱」を納入する「あいプロジェクト」の利用者ら＝四日市市萱生町の暁中学高等学校で

糖、保温シート、簡易トイレなど六点が入っている。学校では非常時に各生徒に配布できるよう準備した。

白い小箱運動は平成二十四年から県内各地で広まり、これまでに各自治体などを通じて約八千個を配布した。昨年度からは県内四高校でも導入を始め広がりを見せている。

箱詰め作業は、各地域の障害者就労支援施設が受注。今回は「ブルーミングハウス」(同市別名)と「あいプロジェクト」(同

市生桑町)の利用者らが、小箱の組み立て、商品詰め、納品までを担当した。

同機構は「白い小箱の活用で、自分で自分の身を守ることの大切さはもちろん、障害者支援などの社会貢献につながることも知ってほしい」としている。